

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 池田さつき会 グループホームポプラ社
(ユニット名)	3階 華ユニット
所在地 (県・市町村名)	大阪府池田市神田
記入者名 (管理者)	口羽 敦子
記入日	平成21年 6月 8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	どなたでも気軽に立ち寄れる雰囲気作り、地域への認知度向上を目指す。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今年度より法人とは別に神田地区で社協に入会し、より地域に根ざした施設作りに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流会を通じ、体操やレクリエーション、楽器演奏や合唱、食事会を実施している。昨年度より夏祭りを地域に開かれたものとした。	○	事業所での行事を地域に開くことよってのより一層の地域貢献の方法を模索し、実施していきたい。防災対策に関して、避難所として、又2～3日分の飲料水、食物、寝衣等の備蓄品を提供できるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価だけで終わる事なく、出来る事から改善しより暮らしやすい環境作りに努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の関わり方などについて、地元住民の方や行政の方、家族の方から助言を頂き活用させていただいている。	○	今後も地域貢献や交流の幅が広がるよう活用していきたい。今回の評価についても議題として取り上げ検討していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の会議や懇親会に参加し、情報収集や行政のサービスについて理解を深め、サービスの向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護のパンフレットを玄関に設置。事前面接時等、必要な方には説明を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待防止関連法について周知を徹底し、認知症実践者研修及び関連法についての研修参加を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしている。必要に応じ連絡を取ったり、家族会での話し合いの機会を設けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満を持っていてもいえない利用者の為、会話だけで無く表情や体調に配慮しスタッフの方から声掛けするよう心掛けている。家族の面会時には、会話をし職員の理解を深めるよう努めている。池田市からは月1回派遣相談員が来られ2時間程ほとんどの利用者とは対話され管理者やリーダーに気付いた点を伝えてくださるので反省材料にさせてもらっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の近況報告と必要に応じて電話連絡をする。また、家族会や運営推進会議での報告も行っている。	○ ・今年の1回目の家族会の報告書は欠席者にも送付したので次回の家族会の反響を期待したい。 ・従来は毎月の行事予定のみお知らせしていたが各ユニットの便りを同時に送付する予定にしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置したり、池田市派遣相談員の来られる日を行事予定表で家族に知らせている。外部の相談窓口を説明する。家族の意見について管理者、リーダーが対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議で意見、提案を聴く。業務の改善等は毎朝の申し送りの時間も含め、適宜話し合いにて決定する。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の話し合いで行事を決めると同時に又、緊急対応には、職員それぞれがやりくりして協力しあっている。対応が可能な職員配置を心掛けている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1つのユニットから1度に複数の職員が異動しないよう配慮している。新規に配属された職員には、現職員がつき利用者には不安感をもたれないよう配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は法人本部の年間プログラムに沿ってそれぞれの研修は定期的実施している。外部研修は熟練度、専門性を考えて管理者が推薦したり本人の自発性を生かす。</p>	<p>○</p> <p>管理者としては、入職時、異動時のレクチャーを重要視している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1度池田市グループホーム連絡会を利用し定期的に見学や意見交換、交流を実施しサービス向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生の見地から費用の一部を補助し、職員の歓送迎会、忘年会を開催し職員の交流に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>半期に1度のヒヤリング、月に1度のリーダー会議で運営者との意見交換があるが、フットワークよく職員と話し合う機会を持ち、よりよい介護が実現出来るよう働きかけがある。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時に家庭環境や趣味、生活歴、本人、家族の思いをアセスメントし不安を取り除けるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学、事前面接で不安、求めている事等について伺い、家族の介護負担の軽減を図っている。</p>	<p>○</p> <p>今後の生活の事等、なんでも相談出来るような関係を家族とも築いていけるよう努めたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に支援方法について他のサービス利用についても提案している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	レクリエーションや家事全般参加の声掛けをし、職員や他の利用者と交流できるよう配慮している。本人が好む話題を提供したりレクリエーションに取り入れたりし、コミュニケーションが図れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	過介護にならないよう出来るだけお話ししたり職員や他利用者の方と協働できるよう配慮している。	○	利用者の方が持つ生活の知恵をお借りして、日々のコミュニケーションを取りながら共に支えあう関係が作れるよう努める。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の希望や状況を代弁し、家族の方とも連絡を取り合い助言、実行している。また施設内の行事に家族も参加していただけるよう呼び掛けている。	○	ユニット便りの定期配布を通し家族と密に連携し、定期的な交流会の提供が出来るよう努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の希望により家族と連絡をとり、家族の希望も取り入れてより良い関係が築けるよう配慮している。共に施設行事に参加していただけるよう呼びかけを継続していく。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や今まで暮らしてこられた地域の方と面接していただき関係が途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常のレクリエーションやお手伝いを通して協力しあう気持ちを持っていただくよう配慮している。個々のペースや行動に合わせた関わり方を配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了時にいつでも相談が出来るようお話している。また新しい環境での生活をされている方には家族の方に相談し訪問を実施している。	○	解約後もお話できる関係を保つ。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のユニット会議のモニタリングやカンファレンス時に、希望や意向を取り入れる方法を相談している。	○	各個人を優先し、同じ方向性で職員、家族共に協力体制を整える。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接や入居の際に本人、家族の方から伺っている。入所後、引き続き傾聴によりより多くの情報を収集し、支援に努める。	○	各個人の暮らしを第一に考えた上で、施設での生活に組み込んでいき支援していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	居室担当者を決め、担当の方に関しては特にきめ細かく体調に配慮したり、意思を尊重し暮らしていただいている。全体的な気付きは、毎朝の両ユニットの申し送り確認している。	○	体操やレクリエーション。家事全般への参加を増やしていけるよう支援していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス時に本人、家族の意向を尊重し、主治医と連携し介護計画を作成している。必要に応じセンター方式を活用している。各個人を尊重したケアの実施に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の中で心身状況の変化に留意し、変化が生じた場合は情報を共有し主治医、家族、介護職と相談し話し合った結果を遂行する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記載している。他介護職が閲覧して詳細が理解できるような内容記載を心掛けている。 毎月モニタリングを実施し、必要に応じてプランの見直しに活用する。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物に、グループホーム、デイサービスセンター、ケアプランセンターがあるので、各々の機能を有機的につないでサービス提供できる。利用者個人の情報がトータルに得易い為、入居の段取り、緊急性への対応ができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回、地域の民生委員と共催で地域交流会を実施しており、ボランティアも参加して食事会や体操、レクリエーション、演奏会を実施。また防災訓練を実施している。運営推進会議を地域包括職員、社協職員、地域代表、利用者、家族の参加の元で、2ヶ月に1回開催している。	○	運営推進会議などにて、地域行事への参加、交流の深め方について意見交換を行い、地域との協働により一層努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同業者とのネットワークに参加し相互交流を行っており、ケアカンファレンスも充実している。入居者状況について居宅支援事業所を訪問し情報交換をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになって頂いており、定期的に情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診とは別に、入居以前からのかかりつけ医に、引き続き受診する方もおり、夜間や急変時の対応についての体制も出来ている。日々の健康状態に留意し、必要に応じ家族に連絡した上で主治医の指示を仰いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>グループホームであるので、従来の入居時の事業所別機能の説明を明確にしていく。同法人の特養とも同一敷地内の介護付き有料老人ホームに内科、外科のクリニックが平成21年6月1日に開設している。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳、プライバシーを守り不快な思いを抱かせないように言葉掛けに十分気をつけて接するよう努めている。個々に合わせ声掛けを工夫し、言葉遣いについても、馴れ合い口調にならないように周知徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	飲み物の提供や、入浴時間、レクリエーションや家事参加について自己決定の許実施している。本人の希望や要望を理解力に合わせた声掛け支援で実現出来るよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の買物希望、外出希望にも極力対応できるよう努めている。レクリエーション、家事への参加へも声掛けし、自己決定を心掛けている。	○ より利用者一人ひとりのペースや趣向に合わせて支援出来るよう努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	全員に対しては難しいが、買物の機会を作り普段よりおしゃれをして出掛けたりしている。理美容は希望者は施設内で施行。女性の利用者には、メイクのボランティアに来てもらい、普段のおしゃれにつながるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は厨房での一括調理だが、献立が焼きそば等の時は出来ることは利用者にしていただいている。食事のレクリエーション、おやつ作りを行い参加していただいている。エプロン、三角巾の用意もある。	○ その時々希望に沿った外食の機会や月1回の特別メニューを増やして行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒等、毎日では無いが主治医了承の元、日時を決め提供している。喫煙者は現在おられない。	○ 利用者と共に買物に出かけ、利用者の好みの物品を購入する機会を増やし、楽しみながら召し上っていただく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を元に、各利用者の排泄パターンに基づき声掛けにてトイレ誘導を行っている。それでも失禁や失便をされる方にはリハビリパンツ等使用されている。カンファレンスや排泄状況に変化が生じた場合は、その都度よりよい排泄の支援について検討している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は主に日中である。ゆっくりと時間を使うよう心掛けている。温泉を好まれていた方が多く、入浴剤を使用し快適に過ごしていただいている。入浴に拒否があった場合、タイミングをずらし声掛けを行い了承の下入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	換気、室温調整、加湿、明暗等利用者に合わせて調整をしている。	○	特に日中に、居室以外でもゆっくり安心してくつろげるような環境作りに努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味、現在出来ることを把握し、お好きなことを継続して頂ける様にする。継続的な取り組みが難しい方には、短時間での取り組みを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方には少ない金額ではあるが自己管理されている。家族の了承の下外出時等に使用していただく事もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時に散歩を出来るだけ実施している。職員の配置によっては散歩が困難な場合もあるので、中庭にて日光浴をして過ごす。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の希望があった場合、外出の行事として実施している。希望者のみのグループで行い、施設での対応が難しい場合は、家族に協力を依頼している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお預かりしている方もあり、本人の希望があった場合は対応している。携帯が無くても、ホームの電話を利用してもらったり、家族から掛けて頂くようお願いする事もある。	○	今後の取り組みとして絵手紙を家族に送るなど、利用者からの発信に努めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は主に利用者の居室にて過ごされている。多目的スペース、リビング等で過ごされる場合は他利用者との交流が円滑に進むよう支援している。	○	あまり訪問されない方に、利用者本人と関わりの深い誕生日会などの行事への参加を促していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。研修により周知徹底を図っている。	○	厳密な意味で、言語表現が不適切であったり、医師の処方であっても安定剤、入眠剤の使用はありうる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵を掛ける事はないが、利用者本人の希望により施錠する事はある。夜間は施錠しなければ眠れないとの希望者があり。日中は他の方が頻繁に居室内に入り、利用者間のトラブルや、大きなストレスになる為、了承の下一時的に施錠する事もある。玄関は施錠されている。	○	玄関、階段室について開錠の方法を検討していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者がどこで何をされているか目視したり、声掛けを行っている。夜間、居室を施錠される方については、介護計画作成、説明時に説明している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや裁縫道具等、危険だと思われるものは本人、家族に了承いただき一括して鍵のかかる場所に保管している。使用の際には、声掛け見守りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に向けた個々の対応を実施している。ヒヤリハット報告書、インシデント報告書の作成。事故後のカンファレンスの実施で再発防止に取り組んでいる。また、緊急時対応マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できる場所に設置している。研修に参加し知識を深めるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当法は提示済み。救命講習の受講済み。	○	定期的な勉強会や研修会の参加。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所の提示や、避難訓練を実施している。地域の協力体制については、地域交流会や運営推進会議を通して協力体制を構築しようと、呼びかけを行っている。	○	地域との協力体制を構築する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体の変化や生活の変化から起こりうるリスクは事前に家族に相談を実施し、変化に気づいた時には必ず早急に報告、相談をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定や利用者の訴え等を主治医に報告し、医療との連携に努めている。	○	状態変化の早期発見、早期対応に向けて観察力を身につけていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に薬情のファイルを作り個々の疾病に対する薬の目的や副作用、用法、用量を理解する。配薬、服薬の誤りによる事故のリスク軽減を図る為、複数人でのチェックを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分摂取量、運動量などに留意し便秘の予防に努めている。主治医からの処方により調整はしているが、排泄チェック表に基づき状態に変化があった場合に、医療的判断や対応が必要な場合には看護師や主治医、薬剤師に報告し指示を仰いでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、見守り、必要に応じて介助を行っている。口腔の状態により、歯科受診、往診を受けている。	○	口腔衛生に一層取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分量のチェックを行い、健康状態に留意している。食事、水分、体重については、主治医に報告指示を仰いでいる。	○	各利用者に来るだけ合わせた献立の立案。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。内外研修に参加し報告研修を実施している。	○	感染症の拡大防止、未然防止について周知し予防を徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は厨房にて適温管理している。調理器具については都度塩素系漂白剤を使用し消毒している。調理前、食事前、外出後の手洗い、うがいを励行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	看板を設置し認知して頂けるようにしている。また、玄関先や中庭で季節感のある花や野菜を植え、目が留まるよう留意して手入れしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がトイレ等がわかり易いように表示している。歩行時の休憩や会話ができるよう、ソファの配置などに留意している。リビングには季節の花を装飾し、より利用者に興味を持っていただく為、月1回のフラワーアレンジメントを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごしていただいている。人が多く集まるリビング以外にも廊下や多目的室に過ごせるスペースを設けている。	○	より過ごしやすい環境作りに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人愛用の身の回りの物を使用し、家庭的な雰囲気を作っている。プライバシーを保ち、気兼ねなく生活できるよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房や換気は常に一人ひとりの健康管理に留意し、快適に過ごしていただいている。感染症や風邪などの発生にも留意し湿度管理にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりがあることにより安全に自立した生活が出来る。残存能力を有効に生かせる環境作りを心掛けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大きな文字の表札、好みの可愛い表札等で、自室が判り易い工夫をしたり、浴室の入り口前に「ゆ」ののれんを下げるなど、個々の能力に応じて、混乱を避ける試みをしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにプランターを置き花を育てていたが、防災対策上好ましくないとして撤去した。現在は、中庭での花や野菜の栽培をし、水遣りや花を見る楽しみ、野菜の収穫等を行っている。	○	今後、出来る範囲で外回りの清掃活動に職員と共に参加して頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域交流